

雑木林の自然史

ーナラ林の生態系を考えるー

関西自然保護機構、大阪自然史センター、大阪市立自然史博物館 共催



コナラやクヌギ、アベマキなどの落葉性ナラ類を主とする関西の雑木林は、多くの種類のチョウや甲虫、野鳥などを育む重要な生態系です。しかし、ナラ林に対する学術的研究はカシ林やブナ林などに較べると立ち遅れており、自然保護的価値に対する評価も十分には定まっています。このシンポジウムでは、ナラ林の生態系を自然史的に読み解くことで、その保護・保全のための理論的な礎を探ってみたいとおもいます。

日時：2007年6月24日（日） 13:00～17:00

会場：大阪市立自然史博物館講堂（市営地下鉄御堂筋線長居駅下車徒歩10分）

参加費無料、博物館入館料のみ（大人300円、高校生・大学生200円、中学生以下無料）

プログラム

ナラ林の自然史と二次的自然の保護

野寄 玲児（神戸女学院大学環境・バイオサイエンス学科教授）

最終氷期以降のナラ林の分布変遷ー気候変動と人間活動の影響ー

高原 光（京都府立大学大学院農学研究科教授）

菌類からみたナラ林

佐久間大輔（大阪市立自然史博物館学芸員）

ナラ林を脅かすキクイムシーナラ林の大異変ー

小林 正秀（京都府立大学大学院農学研究科特別講師）

里山のナラ林に生息するミドリシジミ類

小田切顕一（九州大学大学院比較社会文化研究院特別研究者）

総合討論（コーディネーター：野寄玲児・佐久間大輔）



大阪市立自然史博物館
 大阪市東住吉区長居公園1-23
 TEL:06-6697-6221
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>
 KONC事務局06-6697-6262